ウルトラマン＆スーパーロボット大戦OG　　-光の巨人と鋼の救世主-

ネガ・ナハト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ウルトラマン＆スーパーロボット大戦ＯＧ　　－光の巨人と鋼の救世主－

【Ｎコード】
Ｎ００６９Ｙ

【作者名】
ネガ・ナハト

【あらすじ】
ダークザギの邪悪な闇の力により大打撃を受けた光の国。更にその矛先は地球に向けられた。力尽きる寸前のウルトラの父が言った『異世界の鋼の救世主』たちと共にウルトラ戦士は、二つの故郷を守るために人類の「光」となり、「闇」の前に立ちはだかる！

登場キャラクター（前書き）

今作品に登場するウルトラ戦士達です。

登場キャラクター

〜昭和勢〜

・ウルトラマン
・ウルトラセブン
・ウルトラマンジャック
・ウルトラマンエース
・ウルトラマンタロウ
・ウルトラマンレオ
・アストラ
・ウルトラマン８０
・ゾフィー

〜平成勢〜

・ウルトラマンダイナ
・ウルトラマンコスモス
・ウルトラマンネクサス
・ウルトラマン　ザ・ネクスト（フォームチェンジの一環で）
・ウルトラマンマックス
・ウルトラマンゼノン
・ウルトラマンメビウス
・ウルトラマンヒカリ
・ウルトラマンゼロ
・ウルトラマンノア

設定（前書き）

今作品の設定です。

設定

・時間軸

スパロボＯＧ

ＯＧ２最終戦終了後

ウルトラマンシリーズ

（コスモス、ネクサス、ノア以外）銀河伝説の後

コスモス：別世界（ＦＥＲ）のカオスヘッダーを浄化した後

ノア（ネクサス）：ザギと異空間から脱出した後ノアはネクサスに退化してしまう

・世界観、変更点

スパロボＯＧの変更点

アクセルとアルフィミィが仲間になっており、尚且つ生存している

スレイが仲間になっている

アイビスのアステリオンがアステリオンＡＸになっている。もちろんツグミがサブパイロットになっている

レオナの機体がズィーガーリオンになっている

リオの搭乗機がグルンガスト弐式になっている

エルザムがレーツェルという偽名を使っていない（もちろんサングラス（むしろゴーグル？）をかけていない）

ウルトラマンシリーズ

ウルトラマン達の世界の地球はヨーロッパ、北アメリカ、オーストラリアが壊滅している

ついでに言うと光の国もヨーロッパ、北アメリカ、オーストラリア程ではないが壊滅状態にある

上記でも説明したが、ノアはザギと異空間での戦いでザギの逃亡を許してしまい、ノアも脱出するが、ネクサスに退化してしまう

ネクサスはジュネッスのみの登場が確定している

アンファンスとジュネッスブルーは登場しない可能性が高い

ザ・ネクストはネクサスのモードチェンジのようなもので、ネクサスは自分が有利になるメタフィールドが作れるが、空中戦はザ・ネクストより劣る。逆にザ・ネクストはメタフィールドが作れないが、空中戦はネクサスより上

設定（後書き）

これ以降変更する場合が有り得ます。
ご了承ください。

プロローグ？　～誕生、究極の闇～

―光の国―

ザギ「フハハハハハ。行け！我が闇の力により復活した怪獣軍団よ！光の国を火の海にしてしまうのだーー！」

ダークザギは、自らの闇の力を使って怪獣を蘇らせて怪獣軍団を率いて光の国を破壊つくしていた。

ウルトラの父「ザギよ！そこまでだ！」

ザギの前にウルトラの父が立ちはだかる

ザギ「ふん、ウルトラの父か…果たしてお前に私が止められるか…？」

ウルトラの父「むぅん…いくぞ！」

ウルトラの父はマントを外して拳を構える

ザギ「ふん、はっ、たぁ！」

ウルトラの「むん、たぁ、とぉ！」

ザギ「むぅん…ハアッ！」

ウルトラの父「ぐおお！」

ザギの放った光線がウルトラの父に直撃し、ウルトラの父は吹っ飛ぶ

ザギ「フフフ、トドメだ…！」

タロウ「待てえ！」

グラビティザギを撃とうとするザギの前にタロウ、セブン、ウルトラマンが現れる

ウルトラの父「タ、タロウよ…」

タロウ「父さん！大丈夫ですか！」

ウルトラの父「私の方はいい。それよりお前は二人の加勢を…」

セブン「タロウ！ザギは私たちに任せろ！」

ウルトラマン「お前は早く大隊長を…」

ザギ「逃がしはせん。ムゥン！」

タロウ「うわあぁぁぁ！」

セブン「タロウ！」

ウルトラマン「ヘアァッ！」

ウルトラマンはザギにスペシウム光線を撃つが、左手で呆気なく弾かれた

ザギ「その程度か…ハアッ！」

マン&セブン「「うわあぁぁぁ！」」

ザギ「フッフッフ。四人共闇の前に消え去るがいい…ん？」

ビイィィィ！

ズバアァァァ！

ドガァァァン！

ゼロ「でやあぁぁぁ！」

ザギ「ふん、はっ、たぁ！」

ゼロ「ふ、たあっ、うおお、セヤアー！」

ザギ「ぐおお！」

ザギの前に現れたゼロ達。数は圧倒的に彼等の方が上だ

ゾフィー「ザギ！今すぐ怪獣軍団と共に光の国から去れ！」

ザギ「ふん…お断りだ」

ジャック「何だと！」

エース「お前の怪獣軍団の戦力も多くはないんだぞ！」

ザギ「怪獣軍団などあの力を使えばいくらでもパワーアップができる。コイツらが私の主力だと思わん事だな」

メビウス「あの力…？」

レオ「それは一体なんだ！」

ザギ「光でも逆らうことのできない究極の闇…」

セブン「光でも逆らえない…」

８０「究極の闇…？」

ザギ「貴様等がそれ以上知る必要はない。なぜなら今この場で私に倒されるのだからな。ハアッ！」

ドオォォォン！

『『『うわあぁぁぁ！』』』

マックス「う…ぐお」

メビウス「く…ぐわぁ」

ダイナ「くそ…こんな所で…！」

ゼロ「俺は…まだ、戦える…！」

ザギ「トドメだ。死ぬがいい！」

ザギはウルトラ戦士たちにむけてライトニングザギを撃つが……

ウルトラの父「うおぉぉぉ！」

ウルトラの父が彼等を庇った

タロウ「父さーーん！」

ウルトラの父「う…く…ぐおぉぉぉ」

ザギ「チッ、予定はくるったがウルトラの父を葬り、奴を退化することもできたからこれぐらいにしといてやろう…」

ザギはウルトラ戦士たちに背を向け、プラズマスパークタワーの方を向く。

ゾフィー「ザギ！プラズマスパークの光を奪う気か！」

ザギ「……ベリアルの奴は、あの光を奪ったと聞いたが、随分といらない真似をしたな…」

アストラ「何だって…？」

ゼノン「いらない真似だと…？」

ザギ「いずれ究極の闇はあんな光だって簡単に呑み込める。手を出す価値もない」

タロウ「何だと…！」

ザギ「光の国はこんなものでいいか…。では、次の惑星に行かせてもらおうか」

ヒカリ「次の惑星…？」

エース「まさか…！」

ザギ「フフフ。そのまさかだ。貴様等の第二の故郷…地球にな」

ジャック「く…そうは…！」

ザギ「フッフッフ。地球が漆黒の闇に包まれる様を見てるがいい。フハハハハハ」

ザギはウルトラ戦士たちの前から消えた

ウルトラの父「う…むぅ」

タロウ「父さん！しっかりしてください！父さん！」

ウルトラの父「タロウよ…そしてみんなも良く聞いてくれ」

ウルトラの父「前に、ウルトラマンキングから聞いた事があるのだが、この世界とは異なる世界に人間の技術が大きく進歩した世界があるらしい。」

ウルトラの父「だがその技術は、人間と人間の争いの元で発展された技術なのだ」

ウルトラの父「だがウルトラマンキングは言った。争いで使われた力と言えど、その力で悪を打ち倒し、地球と人間を救ったのだ。」

ウルトラの父「争いが生んだ力は人と地球を守った。そしてウルトラマンキングは彼等の事をこう言った……」

ウルトラの父「鋼の救世主と……」

メビウス「鋼の…」

ダイナ「救世主…」

ウルトラの父「彼等の力ならば…奴を…倒す事が…ぐおぉ」

タロウ「父さん！」

ウルトラの父「みんな…地球を自らの力で救った人間たちとザギを

倒すのだ…」

ウルトラの父「諸君等ならば…きっと…人間たちの…希望の…光に…なって…くれると…信じているぞ……」

ウルトラの父はそう言い残すと、力尽き、目の光が消えて、カラータイマーの点滅の音が止んだ

タロウ「父さん…父さん…！父さぁぁぁぁぁん！」

そんな中、彼等の前に赤いウルトラマンが現れる

ネクサス「！ウルトラの父…！それに、光の国が…くそぅ、間に合わなかったのか…！」

メビウス「あの、あなたは一体…？」

ネクサス「本来の姿は……ウルトラマンノア」

マン「なに？」

セブン「ウルトラマンノアだと？」

ゼロ「親父、知り合いなのか…？」

セブン「彼と戦った事があるのだ。最期は、ザギと共に、異空間に消えたはずだが…」

ネクサス「申し訳ない…俺が奴を逃がす事がなかったら…！」

ゾフィー「どういう事だ…？」

ネクサス「ザギと異空間に入った俺は、突如奴の元に集まった白い粒子によってパワーアップしたザギとの戦いで力を失い、奴を逃がしてしまった…」

メビウス「待ってください。ノアが本来のあなたの姿なら今のあなたはなんと言うんですか？」

ネクサス「ウルトラマンネクサス…」

メビウス「分かりました。ではネクサス。あなたはその白い粒子が何なのか分かりますか？」

ネクサス「恐らく…カオスヘッダーだと思う」

ダイナ「カオスヘッダー？」

ネクサス「俺も良く分からない。このことは…」

コスモス「私が説明しよう」

突然、ウルトラマンコスモスが現れた

ゼロ「あんた一体いきなりなんだ！」

コスモス「驚かして申し訳ない。私の名はウルトラマンコスモス。カオスヘッダーと幾度とない激闘を繰り広げたものだ」

メビウス「あなたが…！？」

マックス「では、カオスヘッダーがどう言うものか知っているのか？」

コスモス「カオスヘッダーとは、簡単に言えば怪獣に取り憑き、狂暴化させるウイルスみたいなものだ」

ゼノン「そのカオスヘッダーを食い止める方法はあるのか？」

コスモス「私の得意技であるフルムーンレクトならカオスヘッダーだけを浄化させ、怪獣を元の姿に戻すことができる」

ネクサス「では、ザギに取り憑いたカオスヘッダーも…？」

コスモス「浄化できたとしても、ザギの闇は消えないだろう…」

ダイナ「そうか…」

ネクサス「だがもしそうならば、その時は俺が決着をつける。奴を逃がした責任は俺にある」

セブン「そうとなったら決まりだな」

ゾフィー「うむ。まずは異世界に行って『鋼の救世主』達を見つけ、共にこの世界の地球を守る事だ」

ウルトラの母「皆さん。少し待ってください」

タロウ「母さん！」

ウルトラの母「ケンの事は私に任せてください。それよりも皆さんに頼みたい事が」

ジャック「どうかしたのですか？」

ウルトラの母「残った怪獣軍団がシェルターを襲うとしているのです。皆さんに対処して貰いたいのです」

セブン「しかし、それでは…」

ダイナ「なら俺が異世界に行って『鋼の救世主』達を連れてくるぜ」

ゾフィー「ダイナ、頼めるか？」

ダイナ「ああ、任せとけ！」

ゾフィー「では我々はシェルターに行こう。シェルター付近の怪獣の掃討が終わったら全員で残党怪獣がいないか光の国のパトロールを行う。ダイナは、こちらに戻ってきたらウルトラサインで伝達を頼む」

ダイナ「了解！」

ゾフィー「では、我々も行くぞ！」

『『『おう！』』』

タロウ「……母さん」

タロウ「父さんを頼みます」

ウルトラの母「分かっているわ。私が必ずこの人を救います。タロウ、行きなさい」

タロウ「はい…！」

ダイナ「さ、俺も行きますか…！」

ダイナは、異世界へ行くディメンションワールドホールを作り出し、異世界へと旅立った……。

プロローグ？　～誕生、究極の闇～（後書き）

とりあえずなんでもいいんで、感想ください。お待ちしております。

プロローグ？　～新たなる戦いの予兆～

ここは、ウルトラマン達とは違う世界。

この世界の地球は、ウルトラマン達の世界と同じように青い綺麗な星だ。

この地球を異星人から守ったのは人間だ。それも、かなりの技術力を持った人間達が。

異星人・アインストから地球を守った、
クロガネ、ヒリュウ改。そして、多数のＰＴとＡＭ。

彼等は戦いを終え、戦艦に帰還しようとした。

だが、

Ｂｉ-Ｂｉ-Ｂｉ

ヒリュウ改から突然警報が鳴る

―ヒリュウ改艦内―

ショーン「む…、新手ですかね。」

レフィーナ「そんな…！アインストは全て倒し、戦いは終わったはずじゃ…」

ユン「いえ、この反応は…時空転移です！」

クロガネとヒリュウ改の前に、小さなホールみたいなのが現れ、そこからたくさんの未確認物体が出現した。

カチーナ「な、なんだありゃ！」

タスク「どう見てもアインストには見えないっすね」

ユウキ「何かの飛行物体に見えるが…」

カーラ「パッと見、ＵＦＯっぽくない？」

ラウル「とは言え、あいつらいきなり現れたぞ」

アクセル「こちらはアインストとの戦いでもう戦闘続行不可能に等しい状態だ」

アラド「だからって、このまま引き下がる分けには…、」

ユン「！　未確認物体、来ます！」

レフィーナ「迎撃準備！」

レフィーナが指示した後、また警報が鳴る

ユン「待ってください。もう一つ転移反応が！」

エクセレン「ちょっとお、まだ来るの…！？」

だが、今度のホールは電撃を発していて、歪んでるように見え、更にホールから、光が高速で出て来たかと思うと、クロガネとヒリュウ改の前に止まり、そこから光が大きくなり、一体の巨人が現れた。

それを見て、驚きを隠せるはずがない

クスハ「光が…」

ブリット「巨人になった…！？」

光の巨人…ウルトラマンダイナはクロガネとヒリュウ改の方を向き、彼等に言う

ダイナ『コイツらは、俺に任せろ！』

リュウセイ「しゃべった！？」

マサキ「何なんだ…アイツ…！？」

ダイナは、未確認物体……スフィアに立ち向かって行く

だが、スフィアの数は軽く五十を越えている

テツヤ「あの数に立ち向かう気か…！？」

ダイナ『スフィアめ…性懲りもなく来やがって！終いには別世界の地球を滅ぼす気か！』

ダイナはスフィアの大群にビームスライサーを放ち、何体か倒すが、それでもまだ半数以上はいる

スフィアはダイナを通り越して、クロガネの部隊に迫る

エイタ「敵機、こちらに接近してきます！」

テツヤ「迎撃用意！」

オペレーターA「ダメです！敵機が速すぎます！」

オペレーターB「迎撃、間に合いません！」

リオ「クロガネが…！」

アイビス「ツグミ、最大加速で…、」

ツグミ「無理よ！もうそれ程動けるエネルギーはないわ！」

アイビス「そんな…！」

ダイナ『させるかーー！』

ダイナは、クロガネに近づいたスフィアを、ハンドスラッシュで撃ち落とす

ダイナは、残ったスフィアの大群の方を向くと、両腕を十字に組んで、必殺技ソルジェント光線を放ち、スフィアを全滅させた

リョウト「凄い…あの大群を一人で全滅させるなんて…」

キョウスケ「奴は…一体何者だ？」

突然の未確認物体と光の巨人の登場に驚くキョウスケ達。だがそれも、無理はないだろう

ダイナ『あー、その、なんだ…。もしかして、驚いてる？いやー急に出てきて悪かったな。とりあえず、話たい事があるから、艦に乗せてもらっていい？』

テツヤ「随分と気楽に言うが、一つ聞かせてくれ。君は何者なんだ？」

ダイナ『話すと長くなるから簡単にしか言わねえけど、俺の名はダイナ。ウルトラマンダイナ！』

テツヤ「ウ、ウルトラマンダイナ…？」

ダイナ『そ、まあ詳しい話は艦の中でゆっくりと…』

戦いを終えた戦士達の前に現れた、光の巨人……ウルトラマンダイナ。

繋がるはずのない、二つの世界が繋がった瞬間(いま)、新たなる戦いの予兆が彼等には感じとられた……

プロローグ？　～新たなる戦いの予兆～（後書き）

感想お待ちしております

プロローグ？　～異世界の真実～

戦いを終えたＰＴとＡＭ全機は、クロガネ、ヒリュウ改の格納庫に帰投した。

それを確認したダイナもクロガネの格納庫に着地した。

ダイナは着地した後、突然光りだし、やがて光の大きさは人間と同じ位になり、光が消えると、そこに現れたのは、

地球防衛チーム『ＳＵＰＥＲ　ＧＵＴＳ（スーパーガッツ）』の隊員服を着た、ウルトラマンダイナの変身者、アスカ・シンが現れた。

ゼオラ「う、嘘でしょ…！？」

ラーダ「あなた…本当は人間だったの…？」

アスカ「まあな。俺はリーフラッシャーって言うアイテムを使ってダイナに変身するのさ」

テツヤ「コホン、ではアスカ。一つ目の質問だ。君はこの世界の住人か？」

アスカ「いいや、違うね」

アクセル「なら俺達がいたもう一つの世界でもないと言うことか」

アスカ「俺がいた世界はこの世界ほど技術は発展していないし、何

より地球を守っているのは防衛チーム・スーパーガッツだったからな」

リュウセイ「スーパーガッツなんて言う組織は、俺達の世界には存在してないもんな」

ライ「ここまで聞くと彼はまったく異なる世界の人間…ということになるな」

テツヤ「では二つ目の質問だ。先程我々を襲って来たあの未確認飛行物体はなんだ？」

アスカ「奴らはスフィアって言うまあ簡単に言えば地球を滅ぼそうとしていた奴らだよ」

ユウキ「していた…？」

カーラ「過去形ってことは、アイツらはいたらおかしいの？」

アスカ「ああ。俺が…いや、俺達スーパーガッツが全部倒したはずなのによ…なんで生き残りがいるのか、分かんねえんだ」

アラド「そのスフィアって言うのはなんで俺達を襲ったんすか？」

アスカ「考えられるのは、アンタらの機体に取り憑いて、自分達の戦うための体にしようとしたんだろうな」

アラド「ええっ！」

ゼオラ「じゃあ、もし取り憑かれたら…」

アスカ「パイロットの命は、助かんねえだろうな」

それを聞いた瞬間、パイロット達は、一瞬ヒヤッとする

テツヤ「では、三つ目の質問だ。……何故、君は我々の世界に来たのか、理由を教えてくれ」

アスカ「いよいよ本題か…。」

アスカはふぅ、と息を吹き、体の力を抜き、静かに語りかける

アスカ「今、俺達の故郷である光の国が、闇の巨人…ダークザギと怪獣軍団によってほぼ壊滅状態に追い込まれた。」

アスカ「ウルトラの父を倒したダークザギは、究極の闇という力を使って、怪獣軍団を率いて光の国を襲った後、俺達ウルトラ戦士の第二の故郷…地球に行った……。」

アスカ「お願いだ！ウルトラの父が言ってくれた…鋼の救世主と呼ばれたアンタ達の力をかして欲しい！」

アスカは鋼の救世主達に必死にうったえる

レフィーナ「……分かりました。あなたの話を信じて、私達はあなた達ウルトラ戦士達にあなた達の世界の地球を救う為、協力します。

」

レフィーナの答えに賛同する乗組員達。

リュウセイ「ウルトラマン達が俺達の事を鋼の救世主って言ってくれる程頼りにしてくれるなら、断る理由はないもんな」

カチーナ「怪獣どもに分からせてやるよ。地球人をなめるなってな！」

マサキ「そいつもそうだな。地球を守っているのがウルトラマン達だけじゃねえって事、証明してやらねえとな」

テツヤ「アスカ。聞いての通りだ。我々、鋼の救世主は、君達ウルトラ戦士に協力する」

ショーン「全ての準備が整い次第、我々をあなた方の世界に行かせてください」

アスカ「ああ！任せてくれ！」

その後、クロガネ、ヒリュウ改は全ての準備を整え、それを確認したアスカは再びダイナに変身する

ダイナ『それじゃあ、行くぜ。準備はいいか？』

テツヤ「こちらは大丈夫だ」

レフィーナ「私達も準備ＯＫです」

ダイナ『じゃあ、行くぜ！』

ダイナは、ディメンションワールドホールを形成し、クロガネ、ヒリュウ改が突入したのを確認して、自分も突入し、ディメンションワールドホールは消えた

鋼の救世主達に協力の承諾を得た、ウルトラマンダイナ＝アスカ・シン。

鋼の救世主達を待ち構える異世界の戦いは、どんなものなのかは、まだ知らないのであった……。

プロローグ？　～異世界の真実～（後書き）

相変わらず短い。でもプロローグだから、いいか！
次回は、鋼の救世主達がウルトラマン達と会い、地球へ行くのだが
……！？

感想お待ちしております

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0069y/

ウルトラマン＆スーパーロボット大戦OG　　-光の巨人と鋼の救世主-

2011年11月13日16時04分発行